

日本におけるアマチュアスポーツのプロ化に関する研究
-プロスポーツの存立要件に着目して-
A study of professionalization of amateur sports in Japan:
Focusing on the necessary conditions of the professional sports formation

1K09B503
指導教員 主査 作野 誠一 先生

島川 将志
副査 原田 宗彦 先生

【目的】

日本プロ野球(NPB) は創立 80 周年を迎え、日本代表チームがワールド・ベースボール・クラシック (WBC) での二連覇を達成し、イチロー選手やダルビッシュ選手のように世界最高峰のメジャーリーグで活躍する選手を多く輩出している。また、来年 J リーグが創立 20 周年を迎えるサッカー界では、現在行われている 2014 年 W 杯アジア最終予選で首位を独走し、W 杯出場常連国に成長した。また、2005 年にスタートしたプロバスケットリーグの bj リーグは、アリーナ型プロスポーツという競争のない市場空間で、プロバスケットを売り込むという独自の戦略で上々の滑り出しを見せている。

その一方で、これまで日本のスポーツの屋台骨を支えてきた企業スポーツが揺らぎ始めている。長引く不況やコーポレートガバナンスの改革などを原因として経営のスリム化が叫ばれるようになり、バブル経済崩壊の 1991 年から 2008 年までの企業におけるスポーツ部の休廃止は 324 にも及ぶ。筆者は今後の日本スポーツ界発展に向けて、アマチュアチームスポーツのプロ化を強く提言したいと考えている。本研究の目的は、日本のアマチュアスポーツがプロ化するにあたり、必要な要素と目指すべき姿を明らかにすることである。

【方法】

本研究では、まずプロスポーツとアマチュアスポーツとは、どのようなものかを明らかにしたうえでプロスポーツとアマチュアスポーツの定義づけを行い、日本の代表的なプロスポーツである、大相撲、プロ野球、J リーグ、そして新規プロスポーツリーグの bj リーグ、そしてアメリカの NFL の成立過程や組織体系、リーグ構造、問題点などについて検討する。その中で、プロスポーツ成立の存立要件を導き出す。さらに、我が国独特の企業スポーツリーグなどアマチュアスポーツの現状について考察を行い、今後それらがプロ化を目指す際に必要となる要素を導き出したい。

【結果】

日本のプロスポーツの現状や組織体系、リーグ構造等について検討した結果、市場性、社会貢献性、組織性、持続可能性の 4 つのプロスポーツの存立要件を導き出した。中でも、プロスポーツの「みせるスポーツ」として機能するかという市場性が最も重要な要素であるという結果になった。そのため、日本のスポーツ界

を支えてきた企業スポーツは、競技の認知度、技術的優位性共に高く、プロ契約している選手も少数ではあるが存在しており、現在日本において最もプロスポーツに近い存在だと言える。そこで、引き続き企業スポーツとして、ラグビーのトップリーグ、バレーボールの V リーグについて検討を進めた。

トップリーグは企業スポーツのため、都市部に集中しており、全国的な普及は全く行われていないのが現状である。そこで、プロ化への移行により、各地方に存在するスポンサーになり得る地方の優良企業と共に新たなクラブを立ち上げるのも良いし、優良企業が保有しているという現状の強みを生かし、フランチャイズ制を導入にし、全国各地にチームを持ち、下部組織の保持などによる地域貢献性の増大、ラグビー文化の発展が期待される。

V リーグは、不透明なリーグ像が招いた、チームに依存した形ではなく、リーグがしっかりと実権を握り、サラリーキャップ制やシングルエンティティなどの制度を執り行うことが理想であると考えられる。また、bj リーグをベンチマークとして、屋内スポーツの固有性を活かした、音楽やチアリーダーのダンスなどショー的な要素を含む戦略的集客マーケティングを行うことが重要であるという結論に至った。

【考察】

企業スポーツの枠を抜け出せていないラグビー、バレーボールの両スポーツは、社会貢献性が低く、リーグが実権を持っていないため、組織の全体像がしっかり確立されていない。そのため、リーグブランドの価値が相対的に低く、競技のトップチームである日本代表の成長は見られない。そのような両スポーツの目指すべきプロ化の姿には多少の違いはあるものの、bj リーグを参考にした身の丈に合った健全なリーグ経営を行いつつ、J リーグの地域に根ざしたクラブ作りを目指すという二つの軸を中心に取り組むという点は共通である。企業スポーツとして、今まで築き上げてきた強みと特徴は活かしつつ、この二つの軸を取り込んだ新しいプロスポーツの姿が理想であると考ええる。

表 1 両リーグの存立要件の達成度

	市場性	社会貢献性	組織性	持続可能性
トップリーグ	×	×	△	△
Vリーグ	△	×	△	△